

【乙女高原の概要】山梨県北部、秩父多摩甲斐国立公園に隣接する面積 5.4ha、標高 1,700m の草原を核心地域とするエリアです。戦前は入会地の草刈り場として広大な草原が広がっていましたが、化学肥料や農業機械の台頭によって草資源は不要となり、草原は激減。しかし、乙女高原には戦後スキー場がオープンし、スキー場のために草刈りが継続され、結果的にそこだけ亜高山性高茎草原が維持されました。2000年、スキー場閉鎖が決まり、このままでは草原が森林へと遷移し、草原が無くなることを危惧した市民・市・県が協働で、ボランティアを募集して草刈り作業を継続していくことにしました。2001年、乙女高原ファンクラブ(以下、クラブ)が発足し、「親しむ」「調べる」「守る」「伝える」をキーワードに、様々な人やセクターとつながりながら、乙女高原の自然を次の世代に譲り渡す活動を続けています。

(1) 行政とのつながり

乙女高原は**県有林**です。1999年、山梨県により**県民文化の森**に指定され、県・市・地元住民・有識者による乙女高原の森連絡会議が組織されました。クラブは連絡会議から発展的に組織されたので、行政と太いパイプを持っています。春の「総歩道づくり」、秋の「草刈りボランティア」、冬の「乙女高原フォーラム」は県・市・クラブの3者共催で行っており、それらの企画や乙女高原の保全について3者で話し合う**乙女高原連絡会議**を年に7回程度開催しています。

(2) 学校とのつながり

地元の笛川(てきせん)小学校は**総合的な学習の時間**で乙女高原の学習をしています。一昨年度までは5年生のみ、昨年度は5・6年生でしたが、今年度から3~6年生と拡大されました。スクールバスを使って乙女高原を訪ね、実際に自然観察や体験活動をしています。クラブで体験学習を支援しています。

(3) 研究者とのつながり

私たちは乙女高原に足しげく通い、乙女高原の自然を見つめてきました。すると、いろいろな疑問が生じ、それについて専門家の意見を聞きたくくなります。私たちは**乙女高原フォーラム**のゲストとして専門家を招き、意見をお聞きしてきました。また、専門家のアドバイスを受けながら、乙女高原の自然を調べる活動もしています。自然を守るためには科学的なデータの裏付けが欠かせないからです。

(4) 企業とのつながり

地元企業の中には、従業員がこぞって乙女高原の活動に参加してくださる会社もあります。また、毎年、経済的に支援してくださる企業もあります。企業が生物多様性保全を支援する機運を高めたいです。

(5) メディアとのつながり

たとえばクラブのマルハナバチ調べ隊に参加くださるのはせいぜい30人です。とてもありがたいですが、市民全体の1%にも足りません。ところが、もし、新聞やテレビが取り上げてくだされば、より多くの人にクラブの活動を知ってもらえます。メディアにはイベントの情報などを丁寧にお伝えしているつもりですが、年々、取材が少なくなっています。

(6) 新しいつながりづくり

「乙女高原の自然を、伝えることで守る」人財として**乙女高原案内人**の養成講座を開催し、修了者がクラブの活動に参画しています。2024年に16年ぶり5回目の養成講座を開催し、23名の**新案内人**を迎えました。2003年を皮切りに、これまでに養成した案内人は100名以上になります。

(7) 自然を守る仲間・草原を守る仲間とのつながり

日本高山植物保護協会をはじめ、全国草原再生ネットワーク、日本山岳遺産基金など、地域の自然を守る活動をしている皆さんと交流することで、自然を守るヒントや、なにより元気がいただけます。